Un petit cafe de Kobe 2003 その③

過激なほっこり系カフェ

Ｓｉ－ｏｎ（しおん）　紫穏

神戸市中央区琴ノ緒町四ー一ー三八七

TEL　０７８（２５１）１５４５

営業時間　11:30～22:30

定休日　日曜

信時　哲郎

過激なカフェ……それがこの店に始めて入った時の印象だ。そんなことを書くと、キングコングが壁から顔を出しているようなカフェを思い浮かべるかもしれないが、Ｓｉｏｎの過激さは、もう少し違ったものだ。

既にＳｉｏｎを知っている人は、「あのほっこり系カフェの、どこが過激なんだ」と思うかもしれない。が、Ｓｉｏｎの過激さとは、まさにそこにある。

まずはその立地条件。「琴ノ緒町」と聞いて、はっきりと場所を思い浮かべることのできる人はどれくらいいるだろう。三宮駅の北東にあたる部分。ＪＲ三ノ宮駅から徒歩でほんの一分ほどだが、この近辺はカフェ不毛の地どころか、いわゆる商業地ではないから、よほどのことがなければ足を運ぶ人も少ない。

しかもＳｉｏｎがあるのは阪急の高架下。ほっこりなごむには、電車の轟音と振動は激しい……インテリアも高架下特有のコンクリートの柱が剥き出しで、表面に白いペンキを塗っただけ。そして照明は蛍光灯。

しかし、普通なら三階建てにしてもいいくらいに天井が高いのに、ロフト席を設けただけ。奥行きも、かなり深いにもかかわらず、座席数はわずかに二十六。フロアや家具には木を用い、ソファ席もある。つまりＳｉｏｎは、こうしたソフト戦略で、「一〇〇％のほっこり系カフェ」になっているのである。いや、もう一つ。店長の村上陽子さん（28）の笑顔も、Ｓｉｏｎの過激さを見えにくくする武器だろう。

村上さんが飲食業に携わるのは、実は始めて。カフェを開かないかと知人に薦められたのが昨年の十一月。年末までエステティシャンを勤め、今年の二月一日にオープンしたのだというから、驚くほどの「早業」である。もしかしたら業界の常識がよくわからなかった故の大胆さ、過激さであったのかもしれないが、とにかく稀代のアイディア・ウーマンであることだけは間違いない。

「カフェ・ブームはもう、一段落ついたと思ってますし、不況というのも身にしみて感じてます。でも、どうせ食べるんなら、ちょっとしゃれた場所で、暖かく迎えてもらって食べたいという気持ちは、いつの時代も変わらないと思うんです。」

たしかに村上さんは、飲食業こそ初めてだったかもしれないが、サービス業に携わるうちに、カフェの本質的なものを既に掴んでいたようだ。

最近、女性のリピーター客が増えてきているというＳｉｏｎだが、場所柄なのか、専門学校の学生や近辺で工事をしている人たちも、よく昼食を取りに来るという。夜にはアルコールを出していることもあって、サラリーマンの客も多いらしい。

立地やインテリアが過激だというだけではない。もしかしたらＳｉｏｎは、一段落したカフェ・ブームの次の形態の〈カフェ〉に向かっているのかもしれない。

コーヒー　４００円　５００円（アイス）
カフェショコラート　６００円
ガトーショコラ　５００円
オリジナルパフェ　６００円
ハートランド　５００円
日替りほっこりｌｕｎｃｈ　７５０円
カレーｌｕｎｃｈ　８００円

高架下に突然現れるカフェ

ロフト席からゆったりした客席を見おろす、